クランクベイトの自作７　－ ブランクの作製 －

１　はじめに

前回はおもりについて掲載しました。今回はブランクの作製です。

２　ブランクの作製

ブランクには軽量粘土を使います。百円ショップ「ダイソー」で購入しました。「ふわっと軽い粘土」と表記があります。粘土ベラがあると便利ですが、私の場合、プラスチックの定規で代用しました。写真にあるタレビンにはサラダ油が入っています。綿棒はサラダ油を塗るために使います。

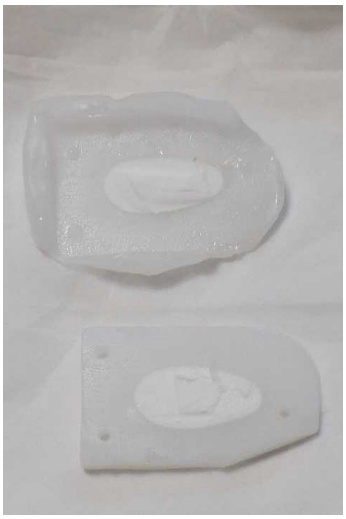
(1)　軽量粘土を型に詰める

軽量粘土を型に詰める前に、サラダ油を塗っておきます。型から粘土が離れやすくなります。

型に軽量粘土を詰めます。できあがったとき、粘土の表面にしわが入らないか気になりますが、粘土を型に強く押しつければ、しわはできないようです。

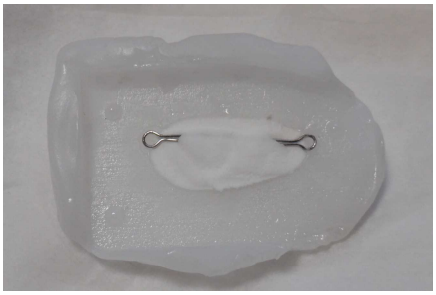
型に詰めたとき、余分の粘土は粘土ベラで取り除きます。ヘラで型の表面を滑らせれば、余分の粘土は除けます。ただし、粘土が少なすぎると、左右の型を合体させたとき、その接着力が弱くなるので、程よく多い方がいいです。

もう一方の型にも同様に粘土を詰めます。



(2)　ワイヤーフレームを埋める

片方の型にワイヤフレームを埋めます。ワイヤーフレームには針金の端が直角に曲げてあるので、それを下にして粘土に埋めます。



(3)　ブランクにおもりを埋める

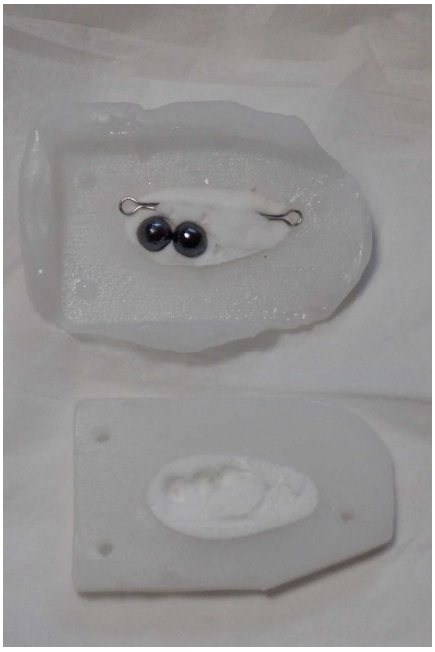
ワイヤーフレームが埋めてあるブランクにおもりを埋めます。おもりを埋める前に、鉄球6㎜にはサラダ油を塗っておきます。粘土の水分でさびるからです。

鉛球6㎜はできるだけ前に、鉄球6㎜はブランクの中央で、かつ、できるだけ下になるように埋めます。

埋める深さは球の半分までです。左右のバランスを取るためです。

写真は2つとも鉛球6㎜です。2つともできるだけ前になるよう埋めました。

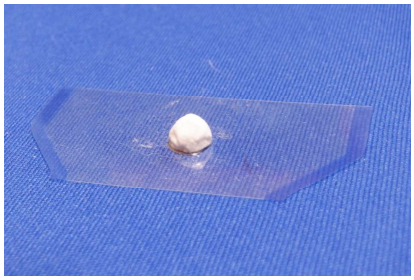
(4)　ブランクからおもりの分だけ粘土を取り除く



おもりを埋めてないブランクから、おもりの分だけ粘土を取り除きます。ブランクのどこから取り除くかと言えば、おもりが入る位置からです。どれだけ取り除くかと言えば、おもりの大きさの半分の量です。具体的には次のようにします。

おもりを埋めた型と埋めてない型とを軽く合わせて、また、離します。これにより、おもりがどこに埋まるかが分かります。ここに「クランクベイトの自作6－おもり－」で作製した「透明フィルムに貼り付けた直径6㎜の半球」を押しつけます。これにより余分の粘土があふれ出てきます。この粘土を取り除きます。

それほど神経質にならなくてもいいです。おもりが収まるべきところの粘土を耳かきで適量取り除けば良いです。これらの作業はおもりがブランクの中央に来るようにするためです。



← 6mmの半球

(5)　左右の型を合体させる

左右の型がずれなように合体させます。左右を合体させると多すぎた粘土がはみ出して“ばり”となります。“ばり”を取り除いては、また、左右を合体させるということを3回くらい繰り返します。繰り返し合体させるとき、左右のブランクのずれがなくなるように調整しながら、合体させます。“ばり”がだんだん少なくなってきます。“ばり”がなくなり、形の良いブランクができたら乾燥させます。

この状態になったら取り出す

→

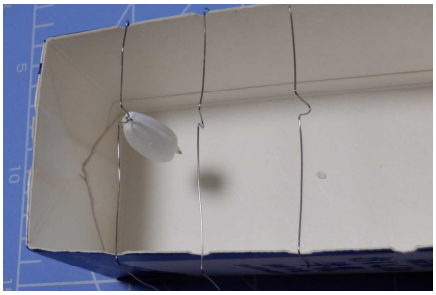
取り出して乾燥させる

(6)　形を整える

数時間、乾燥させるとかなり硬くなります。少量の“ばり”が残っています。左右のブランクのつなぎ目が盛り上がっています。残っている“ばり”を取り除きながら、左右ブランクのつなぎ目がなめらかになるよう、また、表面がなめらかになるよう、水がついた綿棒や指でブランクをなぞります。ブランクを形成している粘土の表面が水で柔らかくなり、形を整えることができます。そして、数時間乾燥させます。左右のつなぎ目がなくなるまで、また、表面がなめらかになるまで、繰り返します。1～3回ほどでできます。ただし、「表面がなめらか」というのは形がなめらかという意味で、表面がツルツルになるという意味ではありません。水で形を整えたときは、表面がツルツルになっていますが、乾燥後は、ざらついています。

＜乾燥台＞

写真は乾燥台で乾燥させている様子です。乾燥台は牛乳パックで作りました。針金はワイヤーフレームに使っている針金です。



3　終わりに

軽量粘土の縮みはほとんどなかったです。ブランクが小さいため、目立たないからかもしれません。
左右のブランクをぴったりと繋げたいのですが、なかなか難しいです。
次は、塗装です。